

教育委員会会議の概要（令和5年6月定例会）

- ◆ 日 時 令和5年6月30日（金）午後2時00分から午後2時43分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 梅 田 委 員

3 報 告 事 項

（1）令和5年度仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査の結果について

（学びの連携推進室長 報告）

資料に基づき報告

山 田 委 員 この結果を基に東北大学加齢医学研究所で検討して、リーフレット等による啓発により、家庭学習などにつながるということによいのか。

学びの連携推進室長 そのように考えている。

山 田 委 員 それは毎年行っているのか。

学びの連携推進室長 毎年行っている。今年度もリーフレットを作成し、保護者用、中学生用、小学生用と3種類作り、中学生、小学生は授業の中で配布して子どもたちと一緒に考えて使用している。

山 田 委 員 以前にも同じようなことをお聞きして、リーフレットを皆様に配ったというのも伺ったと思うが、調査を行い、そのための対策をつくってそれを周知したことにより、結果はよくなっているかということをお聞きしたい。

学びの連携推進室長 このリーフレットで結果が伸びたというところまではっきり言えるかどうかは分からないが、先ほどもご報告したように、例えば自己肯定感という部分に関しては昨

年度より高まっているところも見えるので、そのような積み重ねが少しずつ結果には出てきていると感じている。

山田委員 もちろんそう期待しているが、そのあたりが数値で出ると、こういう結論でこういう対策をすると翌年こういうふうによくなるというのが、流れとして現場の先生方にも見えたらいいのではないかと思う。この結果を見ている限り、よくなっているものもあると思うが、右肩下がりになっているものも結構多いので、そこをどう改善していくのがいいのかという対策ができれば私もお聞きしたいと思う。

梅田委員 11 ページにある仙台市生活・学習状況調査結果の概要の(4)実施人数だが、在籍者数と調査人数の間に小学校だと1,000人少し、中学校だと3,000人ぐらいの差があるが、これは例えば不登校等で調査が実施できなかったという子どもか。

学びの連携推進室長 欠席等で実施できていない子どもたちとなっている。

梅田委員 本来であれば、そういう子どもたちは学習に対してどういう意欲を持っているかということや、生活に対してどんな状況であるかということも知りたいところである。学校に出席していない子どもたちに調査をするというのは非常に困難ではあるが、そのあたりも知りたいというのは思っていた。

あと2点ある。15ページの「授業」の13問目、「学校の授業などで、自分の考えを文章に書いたり、説明するのは好きな方だ」と回答している割合が全体的に低い。これと、標準学力検査の国語の6～7ページになるが、例年、自分で文章を書くところのポイントがずっと低い。ほかの項目に比べて、自分で表現したり自分で書いてまとめる力が弱いとも言えるのかなと思う。子どもたち自身もあまり好きではないと言っていて、実際にあまりできていないというあたりを今後どう考えていくかというのはご検討いただきたい。やはり国語の力は学習全体に影響していくものだと思うので、特に考えを書き表すといったところをご検討いただけたらと思う。最後に、29ページの(8)「道徳心・挑戦・夢」の68番の(a)「自分には、良いところがあると思う」について、「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童が確かに増えてはいるが、どうしても小5、小6のところでもずっと下がっていく。この下がる原因は何だろうか。小6で下がっているが、中3に向けて少しずつ上がるので、そこは先生方が頑張ってくださいているか、何か子どもたちが新たなものを見つけていくのかなという気はする。小学校の高学年に向けて下がっていくところは少し分析いただきたい。そのあたりが学校生活への適応の難しさを感じることにつながるかもしれないので、今後の分析に期待したいと思う。

学びの連携推進室長 国語の件について、書くところについては毎年課題があると考えており、昨年度もその部分が課題になるという話もあったので、課題改善の方策を作成してレベルアップ研修会で周知していた。それが全て結果に出ているかどうかは分からないが、令和3年度に改善事例を作成し、令和4年度に実践して、令和5年度に結果が出るということにつながっていると考えている。例えば小学校の5年生の国語の文章を書くという記述が、令和3年度では4問中2問、目標値と同等だったが、令和5年度では4問中3問と1問上がっている。こちらを継続しながら、また改善事例を作成して進めてまいりたい。

それから、「道徳心・挑戦・夢」というところである。これまでに、「自分には、良いところがあると思う」「自分には良いところだけでなく、悪いところもある」という設問で子どもたちの自己肯定感を見てきた。年齢が上がるにつれてあまり高くは

ならないのが現実だが、やはり小学校から中学校に上がるという一つのステップが子どもたちにとって、切り替えになっていると思われ、中学校1年生では高まってきていると感じている。また、その後、中学校は結構高くなって推移しているが、小学校から継続して自分づくり教育など、様々な取組を行ってきているので、その積み重ねが結果として出てきているところかと考えている。ただ、ご指摘のように、小学校5年生、6年生で、自己肯定感をもう少し高められるような施策を考えてまいりたいと思う。

後藤委員 18ページの「家庭生活」だが、24番の「朝食を食べずに登校する日がある」と回答した生徒が多いことや、25番の「朝食は、主食（ごはんやパン）のほかに、おかずを食べている」の回答を見るとおかずを食べていない生徒もいること、この2つがすごく気になった。少し前に早寝早起き朝ごはんキャンペーンをやっていた時期があったと思うが、最近それをあまり聞かなくなっている。やはり朝ご飯を食べるとするのはとても大切なことなので、そういう周知をまた行っていただきたいと思う。

学びの連携推進室長 「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクトを東北大学加齢医学研究所と進めていたが、朝食を食べる習慣と学力には相関関係があるという結果も出てきていた。先ほどの早寝早起き朝ごはんに関しても、生涯学習課で進めていたので、連携しながら今後も周知の仕方を考えてまいりたい。

花淵委員 仙台市平均というのが出てくるが、これは正規分布になっているのか、それとも上位群と下位群に分かれての平均になっているのか。その分析はこれからなのか、もう行ったのか。

学びの連携推進室長 詳しい分析はこれからである。現在見ているところでは、国語、社会、算数、理科についてはどの学年も正規分布に近い形になっている。ただ、分布の最も多い層が真ん中ではなく、左に寄ったり右に寄ったりというところはある。また、中学校の数学については、最も多い層と少ない層の差がほとんどない状態なので、平らな感じの形になっている。また、英語についても、中学校2年生では階層が多い状況、それから中学校3年生は最も多い層と少ない層の差がないような平らな形の分布に見えている。今後も宮城教育大学と連携をしながら詳しい分析を進めてまいりたいと思う。

花淵委員 上位と下位が差がなくて真ん中になるというのは、上位群も多いが、要は下位群もいるという部分だと思うので、その分析をもう少し深く東北大学加齢研究所の先生方や宮城教育大学の先生方を含めて行ったほうが課題が明確になってくるのではないかと思うので、なお今後細かい分析をお願いしたい。

川又委員 今の成績の分布の形のお話は、以前に私も質問した。数学が真っ平らな分布になっているとか、ベル状の形になっているとか、右左にずれているとか、以前にそういうグラフを見たような気がするが、それは今後もう一度出てくるのか。

学びの連携推進室長 全国の結果を公表するときには正規分布を出していたので、その後に報告させていただく。

川又委員 2ページの目標値というのが分からなかった。目標値というのは仙台市の教育関係の方々に決めている数字なのか、どこからか平均的な数字を持ってくるのか、決め方が何かあるのか。

学びの連携推進室長 目標値は仙台市の標準学力検査において学習内容が定着しているかどうかを判断する目安の指標としている。結果の評価に当たり、一定の具体的、そして客観的な基準としているものである。先ほどもお話ししたが、学習指導要領に示された内容につ

いて標準的な時間をかけて学んだ場合に正答できると期待した児童生徒の割合を時間ごとに設定しており、これを基にした観点別、そして学習内容別の目標値を算出している。

この目標値は、今回の学力検査の業務を委託した民間の学力検査機関において、全国で実施しているテスト結果の蓄積を基に作成し、さらにプレテストなどによって修正して設定しているものである。問題数や内容については、教育局と協議の上、決定しているものである。教科によるばらつきやそれから問題内容との整合性、目標値がさらに信頼できるものになるよう、業者との連携を図っていきたい。

川 又 委 員 目標値については、例えばほかの市で同様のものを実施したときも同じ数字が設定されているのか。

学びの連携推進室長 仙台市独自で目標値を設定している。ほかの都市で目標値という形は取っていないと考えている。

庄 司 委 員 先ほど後藤委員からも出たが、「家庭生活」のところで「朝食を食べずに登校する日がある」という回答の割合が年々高くなっていることについて、ご飯やおかずを食べているとか、パンよりもご飯など、そういう内容も大切だが、まずは、自分の体をつくる源というのがご飯などの食べ物であり、今食べたものが今日ではなくて未来の自分をつくっているということをもっと子どもたちの年代に合わせた分かりやすい教え方をしてほしい。ご飯が準備できていないご家庭もあるとは思いますが、例えばパンを1つ食べただけでも何も食べないよりはいいと思う。そこを学校が指導するところかどうかというのも考えるところはあるが、朝食を食べずに登校する子どもたちの割合が少しでも少なくなるためにはそういう教えも必要と感じた。

学びの連携推進室長 周知の方法について各課と相談しながら進めてまいりたいと思う。

教 育 長 今年ちょうど「仙台市健やかな体の育成プラン」を改定していく年になるので、そちらの担当部署ともデータなどを共有して、いろいろな対策に生かしていければと思う。

4 閉 会